

「専守防衛捨てよ」の大合唱

安倍晋三元首相や河野克俊元統合幕僚長らが参加した憲法をめぐるシンポジウムが21日に東京都内で行われ、ロシアのウクライナ侵略を口実に「専守防衛を捨てよ」との発言が相次ぎました。政府が建前としてきた専守防衛の原則を投げ捨て、改憲シフトを強

安倍元首相ら参加のシンポ

める狙いがあります。

改憲・右翼団体「日本会議」のフロント団体の共同代表などを務める桜井よしこ氏は講演で「憲法改正にあらゆる力を注ごう」「考え方を交えるべきだ」と主張。「専守防衛」を一日も早く捨て去るというふうに国民の考え方を

変えよう」と訴えました。

安倍氏は「桜井さんは『専守防衛でいいのか』という根源的な問いかけをした」「自衛隊は（憲法上の制約があるから『必要最小限度』の実力行使にとどまるべきと解釈される。これが自衛隊を縛っている」などと述べました。

ことは根本的におかしい」と述べ、同調しました。

さらに安倍氏は、自民党が同日まとめた安全保障戦略改定の提言案が軍事費の目標を北大西洋条約機構(NATO)諸国と同様の対国内総生産(GDP)比2%以上としていることに言及。「もっとストリートに書きゃいい」「今の倍の10兆円を超えていく」と述べ、野放図な大軍拡を推進する姿勢を鮮明にしました。